

「株式会社 姫路シティ FM21」

第 38 回 放送番組審議機関 審議会議事録

1. 開催日時 平成21年12月19日(土曜日) 午後2時～午後3時45分
2. 開催場所 姫路市本町68イーグレひめじ地下2階 ミーティングルーム
3. 出席状況
 - 1) 委員総数 11名
 - 2) 出席委員数 8名
 - 3) 出席委員の氏名(敬称略、順不同)

有馬 妙子	梅宮 功	大谷 昭仁
衣笠 愛之	熊田智裕	平間 由香利
宮本 節子	柳谷 郁子	
 - 4) 欠席委員の氏名(敬称略、順不同)

井上 重義	岩成 孝	岸田 直美
-------	------	-------
 - 5) 会社側出席者氏名

白井 正敏	(専務取締役 放送局長)
山南 俊雄	(常務取締役 営業部長)
小幡 博	(営業企画 課長 兼 放送総務 課長)
小林 寛幸	(放送総務部編成制作担当)
4. 議題
資料をもとに説明を行う。
 - (1) 事業報告
 - ・平成21年10月度からの事業報告
 - (2) 事業計画
 - ・1月度番組編成について
 - ・防災ラジオ、ケーブルテレビ再送信のデモ
 - ・試聴

5. 審議内容

事務局より資料説明のあと、質疑応答を実施した。

委員 生放送で機材を持って行ったりした場合、経費的にはどのぐらいかかっているのか？

事務局 機材にかかる費用は200万円。現場用100万円、スタジオ用100万円。開局してからは携帯電話の中継機を使っていたが、聴きづらいものだった。今回県立大学で使用した機材は、試聴にあったようにスタジオの音とほとんど変わらない。あとは社内スタッフが行っているの、それほどかからない。

先方に中継放送で行きたいというと、スタッフが5人も6人も来るのかとか中継車が来るのかとか言われるが、ラジオの場合は肩から担げる機材でスタッフ2名ぐらいでいける。

事務局 大学の時も、まさか中継が始まるとは思っていなかったはず。学生がイメージしたのはテレビの中継のイメージだったかもしれない。通信料は1分つないで50円ぐらい。それに加えてスタッフの費用である。

委員 現場の声に対してスタジオから質問が返ってくるというのは臨場感がある。受け応えも生放送なので、進行する人は大変かもしれないが。

事務局 今回の県立大学ときは携帯ラジオを数台持ち込んで、学生に教室で聞いてもらった。そのため衛星放送のような遅れがあったが。

委員 学校の文化祭や体育祭に押しかけて行って、その時は皆ラジオを持ってきてくださいという、今何がされているかという情報を紙でしかもらえないものをラジオできけると良い。

事務局 機材は200万円であるが、使用しないと償却できないという考えの下、毎週3回使用している。「ふれあいリポート79.3」というコーナーで火曜日水曜日木曜日に使用している。それぞれ10分程度。市民リポーターが街に機材を持って行って、ケーキ屋であるとかイベント会場であるとか、先日は公民館の展示会場などにいって、生中継をしている。

委員長 すごい機動力である。

事務局 この装置がなくても、ラジオは携帯電話だけでも中継できる。

- 副委員長 講義でやってもらっているが学生の反応が良い。カバン一つで来て、「えーっ??」というあいだに始まっていく。目の前のラジオから自分の声が流れてくるというのが新鮮なようだ。授業でいろいろ実演してくれる。携帯電話での受信など、このような授業を色々やってくれるので良い。前の日にラジオを持ってきてほしいというのは良いアイデアではないか。地元の人がラジオを掘り起こしてきて、持ってきてと。実際にあわせて、聞いてもらえたらいいのでは。
- 委員長 ラジオに接していない。
- 副委員長 学生はラジオの扱い方を知らない。
- 事務局 これは由々しき問題である。配布した資料にもあるとおり、ラジオは高年齢化が進んでいる。
- 副委員長 デモのラジオも、災害用に充電できるのですよと、目の前で実演してもらえたらわかりやすい。
- 事務局 このラジオ（充電式ラジオを示して）は一般の電気店で6,000円ぐらいで売っているものである。1分回すと1時間聴く事ができる。ライトもついている。ケーブルを使えば携帯電話の充電もできる。1つあると、必ず役に立つ。
- 委員 消防局などと協力して、文化祭や中学生高校生があつまるところで、PRしてはどうか。そこに中継を入れてリアルタイムに聞けるということを経験してもらえると良い。
- 副委員長 学生は携帯がつかげるというところにリアリティを感じる。
- 委員 仕入れて販売したらどうか？
- 事務局 販売手数料を頂くという形もよいかもかもしれない。
- 事務局 しゃべっているだけだと学生さんも反応してくれない事が多い。
- 委員 GENKI専用などになればよい。
- 副委員長 授業ではアンテナを立ててミニエフエムの実演もしてもらった。
- 委員 地域防災訓練では1000人ぐらい参加者がいる。そこには消防局長もこら

れる。1月17日にあるが、その様なものにも参加してはどうか。

- 事務局 今年あった「まもりんピック」や「総合防災訓練」など規模の大きなものについてはスタッフを派遣してPRすることもあるが、地区の避難所運営訓練などはフォローできていない。今後の課題としたい。避難所運営訓練に参加されている方にステッカーを配って実演するとか考えられる。
- 委員長 ラジオを売り込むわけではないが、メーカーなどと協力して商品提供をしてもらってPRできないものか。
- 事務局 他局の事例だが、FM守口は地元の松下電器と専用ラジオを作ったことがあるようだ。
- 委員長 子供がラジオを聴かない。お年寄りしか聴いていない事が多い。先ほどのケーブルテレビ再送信も良かった。アンテナ線は100円ショップでもかえると言うのは本当か。
- 事務局 短い100円ショップでも売られている。長いものは電気店で5mや10mもある。
- 委員長 電波の入りにくい地域の人に、お土産として配布すれば効果的ではないか。
- 事務局 接続する機械によって何パターンもあり、当社のスタッフで試したがつなぎやすい時とそうでない時があるようだ。ただ、基本的にはつなぎことができれば大丈夫である。
- 委員長 電波が通るところでも調子が悪いところがある。音でしか評価のしようがないので、少しでも悪かったらかえられてしまう。クリアに聴けるとだいぶかわってくる。
- 事務局 夢前や安富などは入りにくい事が多い。その様な中で、実演や紹介ができればいいのではないか。先日ケーブルテレビの方に問い合わせがあったようだ。ケーブルテレビから市の広報を通じて当社に問い合わせがあった。実際にこのようなもので聞けるといふ実演をしていなかったが、広報課にも実演したら認識を新たにしてもらった。地域に出前で説明の機会があればしながら普及ができればと思う。
- 委員 姫路市の提供枠に番組枠があるはず。

事務局 確かに、ケーブルテレビ再送信はケーブルテレビの事業である。

副委員長 各局によって違うので、ケーブルテレビの番組でやってもらわないと意味がないのではないか。

事務局 見ている方が聴ける方である。

副委員長 資料だけでは意味がないので、今実演してもらったように「こんな風にして聴こえました」という1分か2分の番組を流してもらおうと良い。

事務局 一度ケーブルテレビに話をしてみたいとおもう。

副委員長 フリーマガジンでも紹介されているようだが、部品の値段がないので、入れたほうが良い。

事務局 入れてあるとき無いときがあるので、今後は入れるようにしたい。

事務局 フリーマガジンには2年以上前から掲載している。ところが一向に進展がみられない。その中で、今回線を作ってみた。先の部分は局で加工している。その様なものであれば、私もやってみたが簡単に出来るので、普及を進めたい。

副委員長 ケーブルテレビの人に伝えないといけない。問い合わせはケーブルテレビ局に入るので、ケーブルテレビにサンプルをおいておけばよい。インターネットからラジオが聴けるというのもやってみないとわからない。ポッドキャストにしても、案外わからない。めんどくさいと思われる。ポッドキャストの紹介なども、番組の中に入れてもらえると良いのではないか。先日の授業ではパソコンからラジオが聴けるとい装置も説明されていたが、どのようなものか。

事務局 最近発売されたもので、アンテナになっている装置をパソコンに差し込むとラジオが聴けるといものである。5000円ぐらいである。この装置のメリットは、パソコンでラジオの録音ができることである。他にも iPodの新しいものにはFMラジオの機能が付いている。1万5000円ぐらいで売られている。

副委員長 その様なものを色々ところで実演してもらえたらよいのではないか。講義でも反響が良い。iPodというのは、携帯音楽プレイヤーである。いわゆるウォークマンのようなものである。ただかつてはカセットやMDだったものが今はメモリになっている。

- 大谷委員長 たいへん小さくなっているということか。
- 平間委員 これである（手持ちのプレイヤーを示す）。これもラジオが付いている。パソコンにつなげて充電できる。
- 副委員長 学生はすごく持っている。電車で聴いているのは、アレである。それでラジオが聴けるといえるのは教えないとわからない。書いてはあるが。
- 事務局 実演とロコミがないとひろがらない。
- 委員 ラジオというのをもう一度前面に出してPRしてはどうか。FMゲンキだけでなく、消防局とか自主防災会とか。その様な所と一緒に取り組んではどうか。
- 副委員長 30分ぐらいで旨く説明してくれるので、わかりやすい。
- 委員 定款を変更してラジオの販売もできるようにすればよいのではないか。話を聴いて電気屋で買ってというのは大変である。その場で買えると良い。
- 副委員長 iPodについても、中高年層でも音楽を沢山聴きたい人はいる。その人たちにもこれで防災にも役に立つというPRをしてみても。
- 大谷委員長 いろいろ用意されてきているので、それらをいかに利用するかということが大切である。
- 事務局 ラジオが斜陽であると言われる割には、電気店に行ってもラジオのコーナーは幅広く取られている。新商品もよく発売されている。防災ラジオも一世代で終わるのではと思っていたが、後継機種も出た。メーカーも熱心に取り組んでいるのではないか。ご指摘のとおり、改めて防災という観点で来年1年の取り組みにしていくというのは良いかもしれない。
- 大谷委員長 商品を販売するような事業もできるのではないか。FMゲンキは物品販売はできないのか。
- 事務局 物品販売をやっている放送局もあるようである。ラジオそのものを見直してもらおうという取り組みが弱かったかもしれない。いろいろツールを使えば聴けないところでも聴けるといえるということで、普及を促していきたい。姫路市は防災として取り組んでいるが、ご存じないかもしれない。

- 委員 緊急時の放送体制は確立されているのか。
- 事務局 風水害については気象警報が発表されたら社員が出社する。レベル1～3に分けて対応を決めている。地震については震度4以上で社員が出社する取り決めになっている。今年も水害があったが、警報が出るごとに連絡網が局長以下社員全員にまわり、出社人員を決定し対応した。
- 委員 佐用の時に、SNSを使っていたら携帯電話から動画が投稿されており、リアルタイムに情報を手に入れる事ができた。リスナーからの情報をその様な形で収集することはできないのか。
- 事務局 災害があったときは、情報の発信も大事だが情報の収集も大事である。地域SNSのような参加者がはっきりしているようなコミュニティから、裏づけを取りながら情報源とすることを考える必要もあるかもしれない。インプットする媒体の1つとして、SNSやポータルサイトなどと連携する必要はあるかもしれないが、裏づけを取るという課題が残る。
- 副委員長 映像を投稿いただいたとしてどう対応するのか。
- 委員 映像としてきたものを慣れているアナウンサーが実況する形になる。
- 副委員長 映像は瞬間に解釈できるが、言葉にすると時間がかかる。技術的には難しいかもしれないが、ラジオ局のサイトに回していくということはあるかもしれない。ただ、懸念されるのは、どのようにチェックをするかということ。
- 事務局 最終的には局の判断になる。
- 委員 若い方は写メールとちょっとしたコメントを送ることは慣れているが、文章にはできないようだ。
- 副委員長 チェックするしくみができれば良いと思う。
- 事務局 文字で説明するよりも撮って送ったほうが早いということもある。スタッフがスタジオに情報を入れるときも写真をつけて送ることもある。しくみとルールが必要になってくる。
- 副委員長 そのあたりの問題を整理すれば良いと思う。
- 事務局 これについては現状もリスナーからメールが来ているので同じ面も多い

だろう。「道が混んでいる」「事故があった」というメールも頂くが、そのまま放送するわけには行かないので、裏を取ってから放送している。共通のルールができていけば、地域の皆さんに情報を寄せていただきながら、FMゲンキが噛み砕いて、電波やサイトでお返ししていくという、情報がぐるぐるとまわっていくことが大切といえるだろう。

大谷委員長 放送という公共性と遊びとかゲームという側面を担う事ができれば。映像で気が付いたが、資料の写真にぼかしが入っている事が多いが、いかがなものか。あまりにも過敏になるのはいかがなものか。

事務局 もともとぼかしてしまっている写真を使っている。大学の授業写真についても許可をもらっているので問題ない。

大谷委員長 条件的に削除してしまうというのはわけがわからなくなる。不用意にぼかすのも良くない。

副委員長 放送に関しては一過性なので肖像権OKになるとしても、固定した時点でアウトとなる可能性もある。

事務局 現状で問題が発生しやすいのはインターネットに取材日記を載せる場合である。高校に取材に行く番組があるが、その写真を悪用されたこともあった。現在は本人に許可を得るのはもちろんだが、局のロゴを入れたりして対応している。ネットが絡むと際限ないようにおもう。

副委員長 固定する場合やネット上では肖像権の扱いも異なるので注意が必要である。

委員 ラジオに出演した時に思ったのだが、言ってはいけない言葉などを一覧としていただければ。

事務局 どういう言葉がとえば、人を傷つけるようなものはNGである。

大谷委員長 これまでに苦情などが来たことはあるのか。

事務局 それほどはない。

事務局 市民の方がゲストにこられてそこまで線を引くと話しぶりようになってしまうのではないか。もしその様なことになればアナウンサーが謝罪をしている。そのあたりはテレビなどを通して一般の方もご存知の方が多いようである。

- 副委員長 受信エリアについて。周知されているのか。
- 事務局 フリーマガジンには掲載されているが受信イメージである。
- 副委員長 防災拠点に周知しておく必要があるのではないか。
- 委員長 ポイントポイントでは抑えていると認識しているが。
- 事務局 公民館単位で調査を実施したものがあある。聴きにくい公民館はアンテナを設置して対応していただいている。
- 副委員長 出せないというものか？
- 事務局 出せないというものではない。フリーマガジンやホームページには掲載されている。ただ、聴けるか否かはポイントごとに異なってしまう。ケーブルテレビはエリアがはっきりわかるが、ラジオは街の真ん中でも聴けないこともあるし、エリア外でも聴ける場所は多々ある。
- 副委員長 注釈で対応すれば良いと思う。各公民館や役場などで掲示してあればよいだろう。入らないと思っている人もいるかもしれない。
- 事務局 FMゲンキのポスターを貼ってくださっている学校もあるようだ。聴けるか聴けないかのお知らせは今後の検討課題としたい。
- 委員 番組について提案したい。先ほどからラジオの媒体という話があるが、ウェブサイトを活用してラジオで取材したところをウェブサイトにアップロードするというのも検討していくべきではないか。また、姫路城が目の前にあるので観光客ともリンクさせるような事ができないか。今後姫路城は修理となるが終われば姫路城は美しくなる。5年後を見据えた、観光客にはどういう番組を提供できるかということを考えて、観光産業のスポンサーもつける事ができるような何かを考えてみてはどうか。再来年はB-1グランプリの開催が決まっている。このイベントには40-50万人が参加している。それまでに今から準備していくのだが、番組作りもかねてFMゲンキとしても参加してもらって、観光とメディアを結び付けていくことができないものか。地域を元気にするのがFMゲンキであると、アピールできないか。
- 副委員長 FMは最近ではナビゲーションと連携しているところもあるが、それをやろうとするとマンパワーがかかる。5年計画ぐらいで多メディア化するのは困

難ではないか。

委員 観光客の方が情報発信者となるような取り組みも面白いのではないか。

委員長 それについてFMゲンキがしくみや番組を作って、企業に買ってもらうという戦略はとれないのか。

事務局 ブログについて、いくつかの番組についてはリポーターが写真を撮ってきて掲載しているものがある。お店紹介や高校取材がそうである。観光について、毎日番組を放送しているので日々の観光情報については継続して流れている。純粋な放送エリア内にお住まいの方、姫路近郊にお住まいの方に対しては逐一情報が発信できていると考えている。その次のステップとして、観光にこられる方に何ができるか？という部分は難しい問題だと思われる。不特定多数の観光客にFMゲンキが提供できるものは何か？というのはなかなか難しいかもしれない。ただ、FMゲンキのポッドキャストの中で一番聴かれているのは「姫路観光インフォメーション」と「ふれあいレポート79.3」の地域情報番組である。FMゲンキがインプットしてきたものを、事前に調べるということでエリア外の観光客に返していくことは可能だろう。来て頂いた方に聴いていただくというのはなかなか難しい。

委員 本というのは1年も2年も前の情報である。ネットも古い情報も多い。ラジオは常に新しい情報を伝える事ができる。1万円の・・・ではなく1000円のというような、スポンサー作りも取り組んでみてはどうか。経費がそれほどかからず、安くて簡単に放送してもらえそうなものがあってもよいのではないか。

事務局 「姫路観光インフォメーション」は毎週の番組なので15分の音声データを毎週アップしているし、「ふれあいレポート79.3」は週3回アップしているので、それなりに高い更新頻度であると思う。この原稿をラジオで流して、500円・1000円というようなものは、実現可能性は何ともいえないが、費用対効果という次元を超えた部分で価値を認められるのであれば商品の一つとして面白いかもしれない。

委員 お客さんに伝えたいなという情報がある。費用対効果を考えてしまうと5万といわれると躊躇する。

事務局 スポットCMであれば3,000円からあるので、活用していただければ。

委員 企業だけでなく新しい取り組みをしている様な団体が集まれば面白い。

- 事務局 数社の共同出稿で番組を持っているというものもある。
- 副委員長 集積してネット上に情報があるということを繰り返し言うていくことも必要だろう。
- 事務局 ここで1冊紹介したいものがある。審議委員の柳谷先生が黒田官兵衛を絵本にされた。わかりやすく好評と聞いている。黒田官兵衛を大河ドラマにということに地元を中心に取組まれているので、FMゲンキとしても来年はここに焦点を当てて、シンポジウムなどを市と共同で行きたい。
- 柳谷委員 試聴であった東ロータリークラブさんが教育委員会に寄贈し、各小学校に配布していただいたが、各地の篤志家の方々が購入されて小学校に寄贈していただいたりしているようだ。絵画はスーパーマリオでベストセラーになられた方が担当している。もともと黒田官兵衛のファンだったようだ。甲冑などにも詳しい。

午後3時45分、以上の報告・討議・検討を終了し、閉会した。

公表年月日 平成21年12月27日

公表内容 審議の概要

公表方法 自社放送17時15分～17時45分「GENKI傑作選」内
事務所据え置き、ホームページ (<http://www.fm-genki.com>)

以上